

NetSkateKoban

運用時データ追加登録用

CSV ファイルフォーマット変換ツール
マニュアル (CSVIP2)



目次

1 NetSkateKoban用CSVファイルフォーマット変換ツールについて	4
2 運用時データ追加登録用CSVファイルフォーマット変換ツールについて	5
3 データ登録用CSV変換ツールのセットアップ	5
■インストール	5
■実行環境の設定	6
■MS SQL Server 2000 を使用する場合	7
■MS SQL Server 2005 を使用する場合	7
4 テンプレートファイル（変換元ファイル）のフォーマット	8
■テンプレート作成時の注意点	8
■UserTerminal.csv	11
■SensorInterface.csv	13
■SwitchPort.csv	15
5 CSV変換対応表	18
6 データベースアクセスコントロールの設定	19
■PostgreSQL（Windows）	19
■PostgreSQL（Linux系）	22
7 データ登録用CSV変換ツールの実行手順	24
■データ登録用CSV変換ツールの実行	24
8 NetSkateKoban上でのインポート手順	25
9 エラー対処	26
10 付録	27
■GLocation.csv：「場所」	27
■NLocation.csv：「ドメイン」	27
■Organization.csv：「所属」	27
■Network.csv：「ネットワーク」	28
■User.csv：「ユーザ」	29
■Terminal.csv：「ユーザ利用端末」	30
■Sensor.csv：「監視装置（各種センサ）」	31
■Interface.csv：「監視インターフェース」	32
■Switch.csv：「イーサネットスイッチ」	34
■Port.csv：「イーサネットスイッチのポート」	35

2006年4月12日発行

2006年4月26日第2刷発行 (CSVIP2 Ver1.0.1)

2006年8月31日第3刷発行 (CSVIP2 Ver1.0.1)

2006年9月29日第4刷発行 (CSVIP2 Ver1.1)

2006年11月2日第5刷発行 (CSVIP2 Ver1.1)

2007年8月20日第6刷発行 (CSVIP2 Ver4.1)

株式会社 サイバー・ソリューションズ

〒989-3204

宮城県仙台市青葉区南吉成 6-6-3 ICR ビル 3F

TEL : 022-303-4012 FAX : 022-303-4015

URL : <http://www.cysol.co.jp/>

お客様問い合わせ用 E メールアドレス : netskate-sales@cysol.co.jp

1 NetSkateKoban 用 CSV ファイルフォーマット変換ツールについて

本ソフトウェアは、NetSkateKoban v4.1用の登録データを CSV ファイルで作成するための補助ツールです。利用者が用意した CSV ファイルを NetSkateKoban v4.1 の CSV→DB インポートで利用できる CSV ファイルに変換します。この NetSkateKoban v4.1 用 CSV ファイルフォーマット変換ツールには以下の3つの種類があります。

お使いの環境に合わせて適したツールをご使用ください。

名称	説明	KobanDB (Koban30DB) へのアクセス	入力ファイル一覧	出力ファイル一覧	制限
インストール時 初期データ登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツール (CSVIP1)	NetSkateKoban の導入時に、あらかじめ準備した初期データを登録するために、NetSkateKoban 上でインポート可能な CSV ファイルを生成するためのツールです。	不要	UserTerminal.csv SensorInterface.csv SwitchPort.csv ※2	GLocation.csv NLocation.csv Organization.csv Network.csv User.csv Terminal.csv Sensor.csv Interface.csv Switch.csv Port.csv ※3	出力された CSV ファイルを NetSkateKoban 上でインポートする際には、データベースが初期化された状態である必要があります。
運用時 データ追加登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツール (CSVIP2)	NetSkateKoban 上で現在運用中のデータベースへデータを追加するために、インポート可能な CSV ファイルを生成するためのツールです。ツール実行時に指定されたデータベースへ問い合わせを行い、その時点の KobanDB と整合性のとれた CSV ファイルを作成することができます。	必要 ※1			KobanDB へアクセス可能な環境上で実行する必要があります。各情報のキーとなるフィールドがデータベースに存在しないことが条件となります。(一部除く) ※2
登録済みユーザ向け 端末追加登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツール (CSVIP3U)	NetSkateKoban 上で運用中のデータベースに登録されている「ユーザ」に対して、新たに端末を登録するために使用します。ツール実行時に指定されたデータベースへ問い合わせを行い、その時点の KobanDB と整合性のとれた CSV ファイルを作成することができます。	必要 ※4	UserTerminal.csv ※2	GLocation.csv NLocation.csv Organization.csv Terminal.csv ※3	KobanDB へアクセス可能な環境上で実行する必要があります。また、UserTerminal.csv に記述するユーザはすでに KobanDB に登録されているユーザに限ります。 ※5

- ※1 データベースへのアクセスに関する設定については、該当するツールのマニュアル内“データベースアクセスコントロールの設定”および“データ登録用 CSV ファイル変換ツールの実行手順”をご参照ください。
- ※2 詳細は該当するツールのマニュアル内“テンプレートファイル(変換元ファイル)のフォーマット”をご参照ください。
- ※3 各ファイルの詳細については、該当するツールのマニュアル内“付録”をご参照ください。
- ※4 データベースへのアクセスに関する設定については、該当するツールのマニュアル内“データベースアクセスコントロールの設定”および“端末追加用 CSV 変換ツールの実行手順”をご参照ください。
- ※5 詳細は該当するツールのマニュアル内“ユーザ情報のエクスポート方法”をご参照ください。

2 運用時データ追加登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツールについて

運用時データ追加登録用 CSV ファイルフォーマット変換ツール（以下データ登録用 CSV 変換ツール）は、付属のテンプレートファイル（CSV ファイル）を元に作成された CSV ファイルを NetSkateKoban の“CSV →DB インポート”機能に対応した CSV ファイルへと変換・生成するためのツールです。

本ツールは、NetSkateKoban コンソールをインストールした PC 上で実行します。

※ 本ツールにより生成された CSV ファイルは、その時点の KobanDB との整合性が取られています。ツール実行後にデータベースの内容を改変すると、CSV ファイルと KobanDB の整合性が失われ、インポートに失敗する場合があります。

※ 「場所」、「ドメイン」、「所属」、「ネットワーク」以外の情報に関しては、データベース内に存在しないデータを入力する必要があります。上記の4項目に関してはデータベース内にデータが存在する場合は、そのデータがファイル変換時に優先して使用されます。詳細については“テンプレートファイル（変換元ファイル）のフォーマット”をご参照ください。

3 データ登録用 CSV 変換ツールのセットアップ

■インストール

NetSkateKoban コンソール v4.1 をインストールした PC 上に“CSVIP2_***.zip”（***にはバージョン番号が入ります）を用意します。

この ZIP ファイルを NetSkateKoban コンソールがインストールされたディレクトリ内に展開してください。

展開先フォルダ内に以下のファイルが正しく保存されているか確認してください。

(例)C:\Program Files\NetSkateKoban_Console_Ver4\CSVIP2

CSVImportPreprocessor2.bat	（実行用 BAT ファイル）
koban_csvip2.jar	（データ登録用 CSV 変換ツール本体）
UserTerminal.csv	（編集用テンプレートファイル）
SensorInterface.csv	（編集用テンプレートファイル）
SwitchPort.csv	（編集用テンプレートファイル）
UserTerminal(Example).csv	（テンプレートファイル編集例）
SensorInterface(Example).csv	（テンプレートファイル編集例）
SwitchPort(Example).csv	（テンプレートファイル編集例）
VERSION	（データ登録用 CSV 変換ツールバージョン参照ファイル）
lib/pg74.215.jdbc3.jar	（PostgreSQL 用データベースライブラリ）
config/db.properties	（データベースアクセス設定ファイル）

本マニュアル“テンプレートファイル（変換元ファイル）のフォーマット”を参考にテンプレートファイルを編集します。また、同梱の***（Example）.csv には各 CSV ファイルの入力例が記述されています。あわせてご参照ください。

■実行環境の設定

データ登録用 CSV 変換ツールから NetSkateKoban マネージャが使用するデータベースへアクセスするための設定を行います。

データベースについての設定は下記ファイルに記述されています。使用するデータベースの環境に合わせて適切に設定を行ってください。

```
CSVIP2¥config¥db. properties
```

設定例

```
# DB_TYPE is PostgreSQL or MSSQLServer or MSSQLServer2005
DB_TYPE      = PostgreSQL  (使用するデータベースのタイプ)
HOSTIP       = 127.0.0.1   (使用するデータベースサーバのIPアドレス)

# default port number
# | db type          | port number |
# |-----|
# | PostgreSQL      |          5432 |
# | MSSQLServer     |          1433 |
# | MSSQLServer2005 |          1433 |
# |-----|
DBPORT       = 5432        (データベースへアクセスするためのポート番号)
DATABASE     = Koban30DB   (使用するデータベース名)
USER         = KobanUser   (データベースサーバへログインする際のユーザ名)
PASSWORD     = KobanPassword (データベースサーバへログインする際のパスワード)

# (e. g. SJIS or EUC_JP)
ENCODING     = EUC_JP

INIT_POOL_COUNT= 5
MAX_POOL_COUNT = 10
TIMEOUT      = 5
INTERVAL     = 1
```

標準では PostgreSQL を使用する設定になっています。

また、“ENCODING”の部分でデータベースとやり取りする文字のエンコードを指定することが出来ます。

PostgreSQL (UNIX 系、Windows 版) を使用する場合は“EUC_JP”に、MSSQLServer を使用する場合は“SJIS”に設定してください。

■MS SQL Server 2000 を使用する場合

MS SQL Server 2000 を使用する場合（MSSQLServer と設定する）、下記手順に従って MSSQLServer へアクセスするためのドライバを本ツールに適用する必要があります。

※サポートする MSSQL Server 2000 のバージョンは SP3a です。

- ①SQL Server 2000 Driver for JDBC Service Pack 3 を Microsoft Web サイトからダウンロードしてください。

URL:<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?FamilyId=07287B11-0502-461A-B138-2AA54BFDC03A&displaylang=en>

- ②上記ページ内の説明を参考に SQL Server 2000 Driver for JDBC Service Pack 3 を現在お使いの MSSQLServer に適用します。

- ③“CSVIP2/lib”フォルダ内に MSSQLServer のインストール先から下記3つのファイルをコピーしてください。

“インストール先フォルダ”¥Microsoft SQL Server 2000 Driver for JDBC¥lib

msbase.jar

mssqlserver.jar

msutil.jar

■MS SQL Server 2005 を使用する場合

MS SQL Server 2005 を使用する場合（MSSQLServer2005 と設定する）、下記手順に従って MSSQLServer へアクセスするためのドライバを本ツールに適用する必要があります。

- ①SQL Server 2005 JDBC Driver を Microsoft Web サイトからダウンロードしてください。

URL:

<http://www.microsoft.com/downloads/details.aspx?familyid=E22BC83B-32FF-4474-A44A-22B6AE2C4E17&displaylang=en>

- ②“CSVIP2/lib”フォルダ内に SQL Server 2005 JDBC Driver のインストール先から下記のファイルをコピーしてください。

sqljdbc.jar

4 テンプレートファイル（変換元ファイル）のフォーマット

各テンプレートファイルはそれぞれの情報を入力するためのフィールドに分かれています。

これらのフィールドはすべて","（カンマ）で区切られています。

本ツールに付属するテンプレートファイルは以下の通りです。

「UserTerminal.csv」

登録する端末、およびその所有者を入力するためのファイルです。

また、上記の情報に加えて、所有者の「所属」、端末の「場所」「ドメイン」「所属」の情報を入力することが可能です。

「SensorInterface.csv」

ネットワークの監視に使用するセンサ、およびそのインターフェースの情報を入力するためのファイルです。

また、上記の情報に加えて、センサの「場所」「所属」、インターフェースの「ドメイン」を入力することが可能です。

「SwitchPort.csv」

監視するネットワーク内のスイッチ、およびそのポートの情報を入力するためのファイルです。

また、上記の情報に加えて、スイッチの「場所」「所属」、ポートの「場所」「ドメイン」の情報を入力することが可能です。

■テンプレート作成時の注意点

- 以下の情報に関しては、インポート先のデータベースに同じデータが存在しないことが条件となります。データベースに同じデータが存在する状態でインポートを行った場合、インポート実行時にエラーが発生し CSV ファイルの情報を正しくデータベースに登録することができません。
 - 端末情報（UserTerminal.csv）：“MAC アドレス（MACAddress フィールド）”
 - センサ情報（SensorInterface.csv）：“センサアドレス（SensorAddress フィールド）”
 - スイッチ情報（SwitchPort.csv）：“スイッチアドレス（SwitchAddress フィールド）”
- 以下のフィールドに関しては、データベース内に同じデータが存在した場合、データベースの情報が優先して使用されます。データベースの検索対象となるフィールドは以下のとおりです。
 - 「場所」
「場所」の階層表記をもとにしてデータベースを検索します。各 CSV ファイル内の該当するフィールドは以下のとおりです。
 - UserTerminal.csv
 - [GLocPath] フィールド
 - SensorInterface.csv
 - [GLocPath] フィールド
 - SwitchPort.csv
 - [SwitchGLocPath] フィールド
 - [PortGLocPath] フィールド

➤ 「ドメイン」

「ドメイン」の階層表記をもとにしてデータベースを検索します。各 CSV ファイル内の該当するフィールドは以下のとおりです。

UserTerminal.csv

[NLocPath] フィールド

SensorInterface.csv

[NLocPath] フィールド

SwitchPort.csv

[NLocPath] フィールド

➤ 「所属」

「所属」の階層表記をもとにしてデータベースを検索します。各 CSV ファイル内の該当するフィールドは以下のとおりです。

UserTerminal.csv

[UserOrgPath] フィールド

[TermOrgPath] フィールド

SensorInterface.csv

[OrgPath] フィールド

SwitchPort.csv

[OrgPath] フィールド

➤ 「ネットワーク」

ネットワークアドレスとサブネットマスクの組み合わせ (NetworkAddress + SubnetMask) をもとにしてデータベースを検索します。各 CSV ファイル内の該当するフィールドの組み合わせは以下のとおりです。

SensorInterface.csv

[NetworkName] フィールド + [NetworkAddress] フィールド

SwitchPort.csv

[NetworkName] フィールド + [NetworkAddress] フィールド

データ登録用 CSV 変換ツール実行時に、データベース内に同じデータが見つかった場合、以下のようなメッセージが画面に表示されます。

(例)「場所」の場合

```
G-Location already exists in database:
Path : ICR¥3F
DisplayName : 3F
```

(例)「ネットワーク」の場合

```
Network already exists in database.
Network address : 192.168.0.0
SubnetMask : 255.255.255.0
```

- テンプレート作成時にはその行の後半部分に空欄が続く場合でも、行全体で「全フィールド数-1」のカンマを入力する必要があります。カンマの数が足りない場合、変換時にエラーが発生する場合があります。

※Microsoft Excel®を使用して CSV ファイルを編集した際に、後半のフィールドが未入力の行について、その行の後半のカンマが削除されてしまう場合があります。

その場合は該当する行の未入力のセルにスペース（空白文字）を入力しておけば、カンマが削除されることなく、CSV ファイルを作成することができます。

※NetSkateKobanVer3.1以降では UserTerminal.csv ファイルの AllocatedIPAddress フィールドに対して複数 IP アドレスを入力することが可能です。

複数 IP アドレスを入力して生成した CSV ファイルは NetSkateKobanVer3.0 以前では利用できませんのでご注意ください。

■UserTerminal.csv

- UserTerminal.csv は下表の 20 フィールドに分かれています。
- **赤色で網掛けされているフィールドに関しては入力が必要となります。**
- UserTerminal.csv では同じ行に記述されている情報は関連付いているとみなされます。よって、各ユーザは同じ行に記述された端末の所有者として登録されます。1人のユーザに複数の端末を割り当てる場合は、その端末の数だけ同じユーザ情報を各端末の行に記述する必要があります。
- フィールドの順番は以下のリストの順に固定となります。順番を入れ替えることはできません。

フィールド	説明	フォーマット	スペースの挿入	文字数制限
UserID	ユーザの従業員番号, 学籍番号など	指定なし	可	64
UserName	ユーザの氏名	指定なし	可	255
Kana	ユーザの氏名フリガナ	指定なし	可	255
MailAddress	ユーザの E メールアドレス	半角英数、アンダーバー “_”、ピリオド “.”、ハイフン “-”、アットマーク “@”	不可	255
Address	ユーザの住所等	指定なし	可	無し
TelephoneNo	ユーザの連絡先電話番号	半角数字、ハイフン“-”、括弧“(” “)”, アスタリスク “*”, シャープ “#”	不可	128
Memo	ユーザの備考	指定なし	可	無し
UserOrgName	ユーザの所属の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの “¥” は使用不可	可	255
UserOrgPath	ユーザの所属の階層表記 ※変換時にデータベース内の「場所」を検索するキーになります。	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
MACAddress	端末の MAC アドレス	MAC アドレス。コロン「:」で区切った 6 フィールド、2桁の 16 進数 (例 00:a0:6d:42:81:0a)	不可	17
TerminalName	端末の名称	指定なし	可	255
TerminalDescription	端末の説明等	指定なし	可	無し
AddressAllocation	IP アドレスの割当方式, dynamic か static	“Dynamic”、もしくは”Static”を指定		
AllocatedIPAddress	端末の IP アドレス	IP ホストアドレス。ドット”.”で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数 (例 192.168.0.22)	不可	15

TermOrgName	端末の所属(所有)の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥” は使用不可	可	255
TermOrgPath	端末の所属(所有)の階層表記 ※変換時にデータベース内の「所属」を検索するキーになります。	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
GLocName	端末の(設置)場所の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥” は使用不可	可	255
GLocPath	端末の(設置)場所の階層表記 ※変換時にデータベース内の「場所」を検索するキーになります。	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
NLocName	端末のドメインの名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥” は使用不可	可	255
NLocPath	端末のドメインの階層表記 ※変換時にデータベース内の「ドメイン」を検索するキーになります。	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し

■ SensorInterface.csv

- SensorInterface.csv は以下の 17 フィールドに分かれています。
- **赤色で網掛けされているフィールドに関しては入力が必要となります。**
- SensorInterface.csv では同じ行に記述されている情報は関連付いているとみなされます。よって、各センサは同じ行に記述されたインターフェースと関連付けられて登録されます。1つのセンサに複数のインターフェースを登録する場合は、そのインターフェースの数だけ同じセンサ情報を各インターフェースの行に記述する必要があります。
- フィールドの順番は以下のリストの順に固定となります。順番を入れ替えることはできません。

フィールド	説明	フォーマット	スペースの挿入	文字数制限
SensorName	DHCP・ARP センサの名称	指定なし	可	255
SensorAddress	DHCP・ARP センサの IP アドレス	IP ホストアドレス。ドット”.”で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数 (例 192.168.0.22)	不可	15
SensorDescription	DHCP・ARP センサの説明等	指定なし	可	255
GLocName	DHCP・ARP センサの(設置)場所の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥” は使用不可	可	255
GLocPath	DHCP・ARP センサの(設置)場所の階層表記 ※変換時にデータベース内の「場所」を検索するキーになります。	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
OrgName	DHCP・ARP センサの所属(所有)の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥” は使用不可	可	255
OrgPath	DHCP・ARP センサの所属(所有)の階層表記 ※変換時にデータベース内の「場所」を検索するキーになります。	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
ServiceType	Packet Monitor (固定)			
AppType	Sensor (固定)			
Parameter	空白 (固定)			
Interface	DHCP・ARP センサのインターフェース名またはインターフェース番号	半角アルファベット、半角記号、半角数字 (例 “eth0”, “2” “fxp0”) マルチ VLAN センサのインターフェースを登録する場合には、インターフェース名に続け	不可	128

		て”[VLAN#”と”]”でVLAN番号を囲み、入力します。 (例 “fxp1[VLAN#100]”)		
NLocName	インターフェースで監視するドメインの名称	“¥”以外の文字 パスの区切りの“¥”は使用不可	可	255
NLocPath	インターフェースで監視するドメインの階層表記 ※変換時にデータベース内の「ドメイン」を検索するキーになります。	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し
NetworkName	インターフェースで監視するネットワークの名称	指定無し	可	
NetworkAddress	インターフェースで監視するネットワークのアドレス	IP ネットワークアドレス。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255の十進数 (例 192.168.0.0)	不可	
SubnetMask	インターフェースで監視するネットワークのサブネットマスク	IP ネットマスク。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255の十進数 (例 255.255.255.0)	不可	
DefaultGateway	インターフェースで監視するネットワークのデフォルトルート	IP ホストアドレス。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255の十進数 (例 192.168.0.22)。複数登録する際には、さらにカンマ“,”で区切って全体を「”」(2重引用符)で囲んでください。	不可	1アドレスにつき 15 (複数可)

■SwitchPort.csv

- SwitchPort.csv は以下の 29 のフィールドに分かれています。
- 赤色で網掛けされているフィールドに関しては入力が必要となります。
- 黄色で網掛けされているフィールドに関しては条件付で入力が必要となります。
- SwitchPort.csv では同じ行に記述されている情報は関連付いているとみなされます。よって、各スイッチは同じ行に記述されたポートと関連付けられて登録されます。1つのスイッチに複数のポートを登録する場合は、そのポートの数だけ同じスイッチ情報を各ポートの行に記述する必要があります。
また、スイッチのみを登録する場合には、14番目のフィールド(“PortNo”フィールド)以降は空欄で構いません。
- フィールドの順番は以下のリストの順に固定となります。順番を入れ替えることはできません。

フィールド	説明	フォーマット	スペースの挿入	文字数制限
SwitchName	スイッチの名称	指定なし	可	255
SwitchAddress	スイッチの IP アドレス	IP ホストアドレス。ドット”.”で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数 (例 192.168.0.22)	不可	15
SwitchDescription	スイッチの説明等	指定なし	可	255
ProductName	スイッチの製品名	指定なし	可	255
SerialNo	スイッチのシリアル番号	指定なし	可	255
PartNo	スイッチのパーツ番号	指定なし	可	255
OSVersion	ファームウェアバージョン番号	指定なし	可	255
SysContact	管理者のメールアドレス等 (SNMP MIB: SysContact)	指定なし	可	255
SwitchStatus	none (固定)			
SwitchGLocName	スイッチの(設置)場所の名称	指定なし	可	255
SwitchGLocPath	スイッチの(設置)場所の階層表記 ※変換時にデータベース内の「場所」を検索するキーになります。	指定なし	可	無し
OrgName	スイッチの所属(所有)の名称	“¥”以外の文字 パスの区切りの“¥”は使用不可	可	255
OrgPath	スイッチの所属(所有)の階層表記 ※変換時にデータベース内の「所属」を検索するキーになります。	指定なし (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し

PortNo	ポートのインデックス番号 (スイッチに関連付けてポートを登録する場合は必須)	半角数字	不可	無し
PortName	ポートの名称(スイッチに関連付けてポートを登録する場合は必須)	指定無し	可	255
Vlan_ID	ポートの VLAN ID	半角数字	不可	無し
MediaType	ポートのメディアタイプ	指定無し	可	32
PortSecurity	none (固定)			
PortStatus	none (固定)			
NetworkName	ポートの接続しているネットワークの名称 (ポートを SwiMon センサの監視インターフェースとして登録する場合は必須)	指定無し	可	255
NetworkAddress	ポートの接続しているネットワークのアドレス(ポートを SwiMon センサの監視インターフェースとして登録する場合は必須)	IP ネットワークアドレス。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255 の十進数 (例 192.168.0.0)	不可	15
SubnetMask	ポートの接続しているネットワークのサブネットマスク (ポートを SwiMon センサの監視インターフェースとして登録する場合は必須)	IP ネットマスク。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255 の十進数 (例 255.255.255.0)	不可	15
DefaultGateway	ポートの接続しているネットワークのデフォルトルート (ポートを SwiMon センサの監視インターフェースとして登録する場合は必須)	IP ホストアドレス。ドット”.”で区切った4フィールド、0-255 の十進数 (例 192.168.0.22)。複数登録する際には、さらにカンマで区切って全体を「」(2重引用符)で囲んでください。	不可	1アドレスにつき 15 (複数可)
PortGLocName	ポートの接続先の場所の名称	“¥”以外の文字 パスの区切りの“¥”は使用不可	可	255
PortGLocPath	ポートの接続先の場所の階層表記 ※変換時にデータベース内の「場所」を検索するキーになります。	指定無し (パスの区切りは”¥”記号です)	可	無し

NLocName	ポートの接続先のドメイン の名称	“¥” 以外の文字 パスの区切りの“¥” は使用不可	可	255
NLocPath	ポートの接続先のドメイン の階層表記 ※変換時にデータベース内 の「ドメイン」を検索するキ ーになります。	指定無し (パスの区切りは“¥”記号です)	可	無し
ServiceType	“Switch” (SwiMon センサ として登録する場合は必 須・固定)			
AppType	“Swimon” (SwiMon センサ として登録する場合は必 須・固定)			

5 CSV 変換対応表

以下の表はテンプレートファイルを元に各フィールドの編集を行い、変換ツールを実行した場合の変換対応表となります。

本ツールを使用して CSV ファイルの変換を実行すると、各情報ごとに以下のような変換を行います。

(*1-4)の印のついた同名のファイルについては、変換の際に変換元の3ファイル間で情報を統合し、ひとつの CSV ファイルとして出力されます。

最終的に、変換元の3ファイルから NetSkateKoban 上でインポート可能な10個の CSV ファイルが作成されます。

変換元ファイル	出力されるCSVファイル
UserTerminal.csv	User.csv
	Terminal.csv
	(*1)GLocation.csv (GLocPathが記述されている場合)
	(*2)NLocation.csv (NLocPathが記述されている場合)
	(*3)Organization.csv (UserOrgPathまたはTermOrgPathが記述されている場合)
SwitchPort.csv	Switch.csv
	Port.csv
	(*4)Network.csv (ネットワーク情報”NetworkName, NetworkAddress, SubnetMask, DefaultGateway[オプション]”が記述されている場合)
	(*1)GLocation.csv (SwitchGLocPathまたはPortGLocPathが記述されている場合)
	(*2)NLocation.csv (NLocPathが記述されている場合)
(*3)Organization.csv (OrgPathが記述されている場合)	
SensorInterface.csv	Sensor.csv
	Interface.csv
	(*4)Network.csv (ネットワーク情報”NetworkName, NetworkAddress, SubnetMask, DefaultGateway[オプション]”が記述されている場合)
	(*1)GLocation.csv (GLocPathが記述されている場合)
	(*2)NLocation.csv (NLocPathが記述されている場合)
(*3)Organization.csv (OrgPathが記述されている場合)	

6 データベースアクセスコントロールの設定

データ登録用 CSV 変換ツールを実行した際に、指定したデータベースへのアクセスが発生します。この時、アクセス先のデータベースにおいて、データ登録用 CSV 変換ツールを実行する環境からの接続が許可されている必要があります。

本章では、データベースへのアクセス許可を行うための設定方法を説明します。

※使用中のデータベースが MSSQLServer の場合、または NetSkateKoban マネージャをインストール時にデータベースアクセスコントロールの設定を行い、すでに許可されている PC 上でデータ登録用 CSV 変換ツールを実行する場合、以下の手順は不要です。

■ PostgreSQL (Windows)

(1) 認証の設定

- 付属ツール「pgAdmin」を起動し、「ファイル」メニューより「pg_hba.conf を開く」を選択します。
Pg_hba.conf ファイルは標準で、PostgreSQL をインストールしたディレクトリの data/ ディレクトリに保存されています。
保存場所を指定し、ファイルを選択後「開く」ボタンをクリックしてください。
- バックエンドアクセス認証エディタが開いたらテーブルの一番下の空行をダブルクリックし、設定画面を開きます。
- 「可能」チェックボックスにチェックを入れ、
型 : host
データベース : Koban30DB
ユーザー : KobanUser
IP アドレス : 192.168.0.0/24
方法 : md5
以上のように設定し、OK ボタンをクリックしてください。



※この設定例では、データベース「Koban30DB」にアカウント「KobanUser」を使用して「192.168.0.0/24」のアドレスを持つホストから「md5」によるパスワード認証を使用してアクセスできる設定となります。

- ローカルホストからのアクセスに関する設定を変更します。
「方法」のドロップダウンメニューより「trust」を選択してください。また、「ユーザー」の欄に DB スーパーユーザのアカウント名、“postgres”を入力し、OK ボタンをクリックします。

また、NetSkateKoban マネージャと同一マシンで動作させるホストの設定をします。

「可能」チェックボックスにチェックを入れ、

型：host

データベース：Koban30DB

ユーザー：KobanUser

IP アドレス：127.0.0.1/32

方法：md5

以上のように設定し、OK ボタンをクリックしてください。



ローカルホストからのアクセスの設定



NetSkateKoban マネージャと同一マシンで動作させるホストの設定

- ファイルより保存を選択し、設定の変更を保存します。保存後バックエンドアクセス認証エディタを閉じます。

※まれに、正しく設定が反映されない場合があります。そのような場合は pg_hba.conf を直接編集します。

PostgreSQL をインストールしたディレクトリ内の data ディレクトリに移動し、pg_hba.conf をテキストエディタで開きます。

ファイル内の以下の場所に次のように入力し保存します。(一番下の部分になります。)

#	TYPE	DATABASE	USER	CIDR-ADDRESS	METHOD
# IPv4 local connections:					
host	all	postgres	127.0.0.1/32	trust	
host	Koban30DB	KobanUser	127.0.0.1/32	md5	
host	Koban30DB	KobanUser	192.168.0.0/24	md5	
# IPv6 local connections:					
host	all	all	::1/128	md5	

(2)外部から接続可能なアドレスの設定

接続を受け入れるアドレスを指定し、PostgreSQL が TCP/IP 接続を受け入れるようにします。

- pgAdmin の「ファイル」メニューより「postgres.conf を開く」を選択します。
postgres.conf ファイルは標準で、PostgreSQL をインストールしたディレクトリの data/ ディレクトリに保存されています。
保存場所を指定し、ファイルを選択後「開く」ボタンをクリックしてください。
- バックエンド構成エディタが開いたら“listen_addresses”をダブルクリックし設定画面を開きます。



- 「可能」チェックボックスにチェックを入れ、「値」欄に「*」を入力します。
以上のように設定し、OK ボタンをクリックしてください。
- PostgreSQL サービスを再起動します。
ツリーよりローカルホスト上で稼働している PostgreSQL を右クリックし、サービス停止を選択してください。

■ PostgreSQL (Linux 系)

データベースアクセス認証のための `pg_hba.conf` の編集を行って、データ登録用 CSV 変換ツールを実行する環境からのアクセスを許可します。

(1) 認証の設定をします。

PostgreSQL がインストールされたディレクトリに移動し、`"data/pg_hba.conf"` ファイルを編集します。

```
-----  
$ vi ./data/pg_hba.conf  
-----
```

ファイル内の以下の箇所に、`"KobanUser"`、`"Koban30DB"` の設定を追加します。

```
-----  
# TYPE  DATABASE  USER          IP-ADDRESS  IP-MASK      METHOD  
local  all                postgres                        trust  
host   all                postgres      127.0.0.1   255.255.255.255 trust  
host   Koban30DB  KobanUser     127.0.0.1   255.255.255.255 md5  
host   Koban30DB  KobanUser     192.168.0.0 255.255.255.0  md5  
-----
```

上記の例では、「`"Koban30DB"`」に「`"KobanUser"`」アカウントで `192.168.0.0/255.255.255.0` のホストからアクセス可能となり、その際に「`"md5"`」によるパスワード認証で認証」する設定になります。その他、NetSkateKoban マネージャと同一マシンで動作させる場合、`VACUUM` を行う場合に必要な設定です。

ここで、データ登録用 CSV 変換ツールを実行する PC からアクセス可能とする必要があります。詳細な設定は PostgreSQL 付属のドキュメントを参照してください。

(2) 設定を適用します。

DB サーバ(`postmaster`)を再起動してください。

(3) 設定を確認します。

PostgreSQL 付属のコマンド:psql を用いて DB 接続のチェックをします。

下記のコマンドで接続を確認してください。

```
$ ./bin/psql -U KobanUser -W -h <DB Server> Koban30DB
<DB Server>=DB サーバの IP アドレス
```

上記コマンド入力後パスワードの入力を促されるので(3)で指定した “KobanPassword” と入力します。パスワード入力後、以下のメッセージが表示されれば接続成功です。

```
-----
Welcome to psql 7.3.4, the PostgreSQL interactive terminal.
Koban30DB=>
-----
```

Koban30DB への接続を終了する場合には以下のコマンドを実行してください。

```
Koban30DB=>¥q
```

※以下のメッセージが表示された場合はアカウント名、パスワード、DB サーバの指定が間違っている可能性があります。

接続エラー：接続先の DB サーバの指定が間違っている可能性があります。

```
psql: could not connect to server: Cannot assign requested address
        Is the server running on host "192.168.0.0" and accepting
        TCP/IP connections on port 5432?
```

認証エラー：アカウントまたはパスワードが間違っている可能性があります。

```
psql: FATAL: password authentication failed for user "KobanUser"
```

7 データ登録用 CSV 変換ツールの実行手順

データ登録用 CSV 変換ツールを使用して、変換元ファイルより“CSV→DB インポート”用の CSV ファイルを作成する手順を説明します。

※ データ登録用 CSV 変換ツールが実行されると、NetSkateKoban マネージャが使用するデータベースの解析が行われ、“CSV→DB インポート”用にデータベースと整合性の取れた CSV ファイルを変換・作成します。

その為、データ登録用 CSV 変換ツールを実行中または実行後に、そのデータベースに対してデータ（ユーザ情報、センサ情報等）の登録・編集・削除などが行われると、CSV ファイルとデータベースの整合性が失われ“CSV→DB インポート”実行時にインポートに失敗する可能性があります。

本ツール実行時には、他の NetSkateKoban コンソールから NetSkateKoban マネージャにログインされていないか確認後に実行してください。

（ログイン中のコンソールについては NetSkateKoban コンソールのメニューバーより「ツールマネージャ ステータス」を選択して「接続コンソール数」から確認できます。）

■ データ登録用 CSV 変換ツールの実行

実行の前に、“UserTerminal.csv”、“SensorInterface.csv”、“SwitchPort.csv”が CSVVIP2 フォルダ内に保存されていることを確認してください。

確認ができればデータ登録用 CSV 変換ツールを実行します。実行には以下の2つの方法があります。

- ① エクスプローラより CSVVIP2 フォルダに移動し、CSVImportPreprocessor2.bat をダブルクリックします。
- ② またはコマンドプロンプトより“CD”コマンドによって CSVVIP2 フォルダに移動し、手順でコピーしたフォルダに移動し、CSVImportPreprocessor2.bat を実行します。

開始時に以下のメッセージが表示されます。

```
--== Started CSV PreProcessor ==--
```

CSV の変換作業が終了すると以下のメッセージが表示されます。

```
--== Completed executing CSV PreProcessor ==--
```

CSV の変換作業後に以下のようなメッセージが表示された場合は変換中にエラーが発生した可能性があります。“7章：エラー対処”を参考に対処を行った後、再度変換作業を実施してください。

```
--== Some error occurred in converting CSV file. Please refer to the output log('log/')==--
```

変換された CSV ファイルは CSVVIP2 フォルダ内の「KobanCSVforImport」フォルダに出力されます。

8 NetSkateKoban 上でのインポート手順

NetSkateKoban マネージャが使用するデータベースへ、作成した CSV ファイルをインポートする手順を説明します。

※データ登録用 CSV 変換ツールを実行して“CSV→DB インポート”用 CSV を作成してから、NetSkateKoban 上でインポート作業を行うまでの間に、NetSkateKoban コンソールからデータ（ユーザ情報、センサ情報等）の登録・編集・削除は行わないでください。CSV ファイルとデータベースの整合性が失われ、インポートに失敗する場合があります。

- (1) 作成したインポート用 CSV ファイルを“KobanCSVforImport”フォルダごと NetSkateKoban コンソールを実行する PC 上にコピーします。
(コンソールを実行する PC 以外で変換作業を行った場合)
- (2) NetSkateKoban コンソールを起動します。
- (3) インポートを行う Koban マネージャへログインします。
- (4) 「ファイル (F)」メニューより「CSV→DB インポート」を選択します。
- (5) CSV ファイルが保存されているフォルダを指定するダイアログが表示されます。ここで、今回作成された「KobanCSVforImport」フォルダを指定します。
- (6) 「次へ」ボタンをクリックします。
- (7) インポートする項目を選択するダイアログが表示されます。
- (8) ここで、インポートする項目のチェックボックスにチェックを入れ、「インポート」ボタンをクリックします。
- (9) インポートする情報の確認ダイアログが表示されます。表示されている項目を確認後、「OK」ボタンをクリックします。

以上で、NetSkateKoban マネージャへのインポートは完了です。

9 エラー対処

データ登録用 CSV 変換ツールを実行した際、および CSV→DB インポートを行った際にエラーが発生した場合にご参照ください。

	現象	確認事項	対処方法
1	データ登録用 CSV 変換ツールを実行しても「指定されたパスが見つかりません。」と表示され、変換に失敗してしまう。	NetSkateKoban コンソールをインストールしたフォルダ内で実行していますか？	本ツールは NetSkateKoban コンソールがインストールされたフォルダ内で実行する必要があります。”6 章:データ登録用 CSV 変換ツールの実行手順”を参考に必要なファイルを上記フォルダ内に移動してから実行してください。
2	入力した行が変換・出力されない	各変換元ファイルの必須項目は入力されていますか？	必須項目は必ず入力してください。入力されていない場合は変換の対象となりません。 必須項目については”4 章:テンプレートファイルのフォーマット”を参照してください。
3	データ登録用 CSV 変換ツールを実行しても、空の CSV ファイルが生成される。	CSVImportPreprocessor2.bat および koban_csvvip2.jar と同じフォルダに以下の変換元のファイルがありますか？ UserTerminal.csv SensorInterface.csv SwitchPort.csv	CSVImportPreprocessor2.bat および koban_csvvip2.jar と同じフォルダに変換元のファイルを準備してください。
4	データ登録用 CSV 変換ツールを実行しても以下のエラーメッセージが表示されてしまう。 --== Some error occurred in converting CSV file. Please refer to the output log('log/')==--	出力先フォルダ内の CSV ファイルを別のアプリケーションで開いていませんか？	Excel 等、他のアプリケーションで出力先の CSV ファイルを開いている場合に、このようなメッセージが表示される場合があります。 他のアプリケーションを終了させてから再度 CSV の変換を実行してください。
		変換元ファイルはフォーマット通り正しく記述されていますか？	変換元ファイルのフォーマットが正しくない場合に、このようなメッセージが表示される場合があります。 実行したフォルダ内の”log/event.log.*”に変換時・エラー発生時のログが記述されています。[ERROR]または[FATAL ERROR]で始まる行を参照して、対処を行ってください。
5	変換された CSV ファイルを NetSkateKoban 上でインポートしようとするエラーが発生する。	各フィールドのフォーマットや文字数などの制限に沿って入力していますか？	各フィールドのフォーマットや文字数の制限を再度確認してください。フォーマットや文字数については”4 章:テンプレートファイルのフォーマット”を参照してください。
6	データ登録用 CSV 変換ツールを実行後、以下のメッセージが表示されて CSV ファイルが作成されない。 --== DBConnection can not be created. Please check database connection setting. ==--	データベースへアクセスするための設定ファイル ”config/db.properties”は適切に設定されていますか？	”config/db.properties”の設定が適切にされていないとデータベースへのアクセスが出来ず、CSV ファイルが作成できません。本マニュアル 6 章 (3) を参照して、再度データベースの設定を行ってください。

10 付録

付録として、本ツールによって生成される 10 個の CSV ファイルのフォーマットを以下に示します。

NetSkateKoban 上で“CSV→DB インポート”機能を用いてインポートを行う際には、各 CSV ファイルが以下のようなフォーマットに従っている必要があります。

また、赤色で網掛けされているフィールドに関しては入力が必要となります。

(注) “スペース挿入”は入力する文字と文字の間に空白文字（スペース）を挿入することを指します。

■ GLocation.csv : 「場所」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
GLocID	場所 ID	半角数字	不可	2 ~ 2147483647
DisplayName	場所の名称	“¥”記号以外の文字列	可	255 文字
Path	場所の階層表記	指定なし (パスの区切りは“¥”記号です)	可	無し
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ NLocation.csv : 「ドメイン」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
NLocID	ドメイン ID	半角数字	不可	2 ~ 2147483647
DisplayName	ドメインの名称	“¥”記号以外の文字列	可	255 文字
Path	ドメインの階層表記	指定なし (パスの区切りは“¥”記号です)	可	無し
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ Organization.csv : 「所属」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
OrgID	所属 ID	半角数字	不可	2 ~ 2147483647
DisplayName	所属の名称	“¥”記号以外の文字列	可	255 文字
Path	所属の階層表記	指定なし (パスの区切りは“¥”記号です)	可	無し
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■Network.csv : 「ネットワーク」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
NetworkID	ネットワーク ID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
NetworkName	ネットワークの名称	指定なし	可	255 文字
NetworkAddress	ネットワークのアドレス	ドット”.” で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数	不可	15 文字
SubnetMask	ネットワークのサブネットマスク	ドット”.” で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数	不可	15 文字
DefaultGateway	ネットワークのデフォルトルート	ドット”.” で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数。 複数登録する際には、さらにカンマ “,” で区切って全体を「」(2 重引用符)で囲んでください。	不可	1 アドレスにつき 15 文字
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ User.csv : 「ユーザ」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
ID	ユーザ ID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
UserID	ユーザの従業員番号, 学籍番号など	指定なし	可	64 文字
UserName	ユーザ氏名	指定なし	可	255 文字
Kana	ユーザの氏名フリガナ	指定なし	可	255 文字
MailAddress	ユーザの E メールアドレス	半角英数、アンダーバー “_”、ピリオド “.”、ハイフン “-”、アットマーク “@” (※ “@” は必須) (例) “koban@cysol.co.jp”, ”koban@cysols.com”	不可	255 文字
Address	ユーザの住所等	指定なし	可	無し
TelephoneNo	ユーザの連絡先電話番号	半角数字、ハイフン “-”、括弧 “(” “)”、アスタリスク “*”, シャープ “#”	不可	128 文字
Memo	ユーザの備考	指定なし	可	無し
OrgID	Organization.csv ファイルの OrgID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ Terminal.csv : 「ユーザ利用端末」

フィールド	説明	フォーマット	スペース 挿入	文字数 制限
MACAddress	端末の MAC アドレス	コロン「:」で区切った 6 フィールド、2 桁の 16 進数	不可	17 文字
TerminalName	端末の名称	指定なし	可	255 文字
TerminalDescription	端末の説明等	指定なし	可	無し
AddressAllocation	IP アドレスの割当方式	“Dynamic”、もしくは”Static”を指定		
AllocatedIP	端末の IP アドレス	ドット”.”で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数。複数登録する際には、全体を「”」で括って IP アドレスをカンマ“,”で区切ってください	不可	無し
UserID	<u>User.csv</u> ファイルの <u>ID</u> フィールドを指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
OrgID	<u>Organization.csv</u> ファイルの <u>OrgID</u> を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
GLocID	<u>GLocation.csv</u> ファイルの <u>GLocID</u> を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
NLocID	<u>NLocation.csv</u> ファイルの <u>NLocID</u> を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ Sensor.csv : 「監視装置 (各種センサ)」

フィールド	説明	フォーマット	スペース 挿入	文字数 制限
SensorID	センサーID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
SensorName	ARP-DHCP センサの名称	指定なし	可	255 文字
SensorAddress	ARP-DHCP センサの IP アドレス	ドット”.” で区切った 4 フィールド、0-255 の十進数	不可	15 文字
SensorDescription	ARP-DHCP センサの説明等	指定なし	可	255 文字
OrgID	Organization.csv ファイルの OrgID を指しま す	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
GLocID	GLocation.csv フ ァイルの GLocID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■ Interface.csv : 「監視インターフェース」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数 制限
InterfaceID	インターフェース ID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
ServiceType	DHCP-ARP センサおよび CpMonitor の場合は ”Packet Monitor”に固定 SwiMon センサの場合は “Switch”に固定			
AppType	DHCP-ARP センサの場合は ”Sensor”に固定 SwiMon センサの場合は “SwiMon”に固定 CpMonitor の場合は “CpMonitor” に固定			
Parameter	SwiMonセンサの監視インターフェースとして登録する場合は 必須 です。 (Port.csv ファイルの中から監視インターフェースとして登録するポートの PortID を指定します。) DHCP-ARP センサの場合、CSV エクスポートしたファイルを使用する際はそのセンサが通知した Trap の Version が入力されています。	指定なし	可	255 文字
Interface	DHCP-ARP センサまたは SwiMon センサの監視インターフェース名。(SwiMon センサの場合はスイッチのポート名になります。)	半角アルファベット、半角記号、半角数字 (例) “eth0”, “2”, “fxp0”, “fxp1[VLAN#100]”, Fa0/13”	不可	128 文字
SensorID	Sensor.csv ファイルの SensorID を指します。(DHCP-ARP センサの監視インターフェースを登録する場合のみ記述します。)	半角数字	不可	1 ~ 2147483647

	SensorID を指定した場合は”SwitchID”は空とします。）			
SwitchID	Switch.csv ファイルの SwitchID を指します (SwiMon センサの監視インターフェースを登録する場合のみ記述します。 SwitchID を指定した場合は”SensorID”は空とします。)	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
NetworkID	Network.csv ファイルの NetworkID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
NLocID	NLocation.csv ファイルの NLocID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■Switch.csv : 「イーサネットスイッチ」

フィールド	説明	フォーマット	スペース挿入	文字数制限
SwitchID	スイッチ ID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
SwitchName	スイッチの名称	指定なし	可	255 文字
SwitchAddress	スイッチの IP アドレス	ドット”.” で区切った4フィールド、0-255 の十進数	不可	15 文字
SwitchDescription	スイッチの説明等	指定なし	可	255 文字
ProductName	スイッチの製品名	指定なし	可	255 文字
SerialNo	スイッチのシリアル番号	指定なし	可	255 文字
PartNo	スイッチのパーツ番号	指定なし	可	255 文字
OSVersion	ファームウェアバージョン番号	指定なし	可	255 文字
SysContact	管理者のメールアドレス等 (SNMP MIB: SysContact)	指定なし	可	255 文字
SwitchStatus	“none”に固定			
OrgID	Organization.csv ファイルの OrgID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
GLocID	GLocation.csv ファイルの GLocID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

■Port.csv : 「イーサネットスイッチのポート」

フィールド	説明	フォーマット	スペース 挿入	文字数 制限
PortID	ポート ID	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
PortNo	ポートのインデックス 番号	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
PortName	ポートの名称	指定なし	可	255 文字
Vlan_ID	ポートの VLAN ID	半角数字	不可	0 ~ 2147483647
MediaType	ポートのメディアタイ プ	指定なし	可	32 文字
PortSecurity	ポートセキュリティ	指定なし	可	32 文字
PortStatus	ポートステータス	指定なし	可	16 文字
NetworkID	Network.csv ファイル の NetworkID を指し ます	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
SwitchID	Switch.csv ファイルの SwitchID を指します	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
GLocID	GLocation.csv ファイ ルの GLocID を指しま す	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
NLocID	NLocation.csv ファイ ルの NLocID を指しま す	半角数字	不可	1 ~ 2147483647
Flags (オプション)	フラグ	A or M or D or I	不可	1 文字

※ “CSV→DB インポート” 機能・各 CSV ファイルのフォーマットについてのさらに詳細な説明については NetSkateKoban リファレンスマニュアル (管理編) 内の「CSV→DB インポート」の節をご参照ください。